様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６５０５７７

研究課題名（和文）ウラマーによる近代科学の受容とムスリム社会の史的構造：信仰と科学の現象学的社会学

研究課題名（英文）Acceptance of Modern Science by 'Ulama' and Historical Structure of Muslim Society: Phenomenological Sociology of Faith and Science

研究代表者
阿久津　正幸（AKUTSU, Masayuki）

東京大学・人文社会系研究科・研究員

研究者番号：１０６２６１８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：過去においてアラブ・イスラーム文明の繁栄を支えた信仰と科学を融合させる精神は、現代の東南アジア、特にインドネシアで顕著に認めることができた。宗教的知識人（ウラマー）から市井の人々まで、多くの人々が信仰に基づいた現代社会の構築に日々深く関係することで、イスラーム的市民社会が開花している。これに対して中東のエジプトの場合は、こうした伝統的精神は失われつつあり、宗教は宗教として、現代科学や社会とは一線を画そうとする意識が広がっている。繁栄する東南アジア社会、対して停滞する中東アラブ社会の相違を裏付ける文化的・社会的な一側面を、学際的な観点により確認した。

研究成果の概要（英文）：The spirit for integrating religious faith and science, which was the basis of prosperous Arab-Islamic civilization in the past, has been inherited in today's Indonesia. From religious intellectual ('Ulama') to person on the street have been deeply concerned with the construction of contemporary society relying on traditional faith. So Indonesia receives the full benefit of Muslim civil society today. In Egypt contrary, such historical spirit is faced with the extinction, so modern science and contemporary society are regarded as alien to traditional faith. Symbolic difference between both countries are admitted by this comparative and interdisciplinary method.

研究分野：地域研究、歴史学、社会学

キーワード：信仰と科学　宗教と社会　東南アジアのイスラーム　中東のイスラーム　イスラームと市民社会

１．研究開始当初の背景

日本を含むグローバルな環境において、政治や経済や社会的分野におけるイスラームの動向に対する注視が、その是非を含めて高まりつつある。こうしたなかで、一方ではイスラームに対して経済的商機のみで関心が寄せられながら、他方ではイスラームに対して戦乱やテロとの連想をするなど、多くの場合、ごくわずかな情報と断片的な理解だけでもって、政治や経済や社会に対するイスラームの影響が語られている。

世界的な規模でのこうした背景において、さまざまな偏見を取り除いて、純粋にイスラームの宗教的内容や信仰面から研究を出発して、その上でなぜ政治や社会面において、イスラームに対する評価がこれほど幅をもって理解されるのかについて、今回は特に社会について焦点を当てながら研究しなければならない必要性を感じた。

２．研究の目的

イスラームの宗教の内容や信仰面について、たとえば厳格な一神教、断食（ラマダーン）、巡礼（ハッジ）、食事の規定（ハラール）や服飾規定（女性のヒジャーブ着用）など、ごくわずかな断片的情報だけに固執せず、政治や経済や社会面のすべてを含めて、広く現代の日常的な生活が進行していくなかにおいてイスラームが一体どのような作用を及ぼしているのか、社会学的な観点に基づいた分析を行っていく。

この際には、中東アラブ（エジプト）と東南アジア（インドネシア）のそれぞれを比較しながら、一面的ではありながらも日常的に多用される信仰や儀礼に関する宗教的言説が、実際の社会とどのような関連性をもっているのかを、分析を行うにあたっての主要な軸としていく。

３．研究の方法

イスラームの宗教に関する知識人について、その知識の伝達方法（教育面）や、その知識の実践面（人々の求めに応じた法的判断の提供など）に注目していく。その上で、アラブのエジプトと東南アジアのインドネシアの双方では、それぞれの宗教的知識人について、なにが共通しており、足して何が異なっているのかを比較しながら分析していく。それぞれの国の言語環境や初等教育の状況を確認しつつ、その上で一般の人々の日常的な社会活動面に対して、双方の知識人がどのような関わりを持っているのか、その態度を比較しながら、イスラームの宗教的内容や信仰面の実社会との関連性の相違を比較分析していく。なお、双方の知識人によって、現代的な技術的な知識など、いわゆる伝統的な宗教的知識とは定義されない各種の知識について、それをどう見なしているのか、その教育の実践において、どのような相違があるのかも、重要なポイントとして注目していく。

４．研究成果

過去から連綿として継承されてきた伝統的な遺産として、アラブのエジプトでも東南アジアのインドネシアでも、イスラームの宗教に関する知識人は、その宗教に関する知識を伝授する際に師弟関係の系譜を最重要視している点では共通していることがはっきりと認めることができた。書籍以上に、現代の発達したインターネット・サービスは、こうした宗教に関する知識の授受には不可欠なメディアとなっていることは、自他共に認められているものの、そうした情報源だけで知識を伝授することに加えて、人々に認められている中核的な教師に教育を受けるという知的系譜の確保は、双方の国における宗教的知識人にとっては、欠かせない重要な慣習となっている。

そうした上で、両地域の宗教的知識人の間での顕著な相違は、その受け継いできた遺産としての知識内容を、実際にどのように活用するのかに顕著に認められることができた。宗教内容によって定められてきたさまざまな規定について、それを如何にして遵守できるか、そのために要求される応用的な知識や理解力の面で、両地域の知識人には大きな相違が存在していた。

アラブの場合、宗教的な戒律や儀式・儀礼に関する規定など、直接的かつ表面的な文言に固執するだけの特徴がみられた。それ以外、応用力に必要とされる現代的な技術的知識などは、二次的なものとして軽視される傾向があった。

対して東南アジア、特にインドネシアの宗教的知識人は、容易に変更することのできない宗教的戒律や規定を、日々変化する実際の政治・経済・社会的な生活のなかにどのように租借しながら適用していくのか、周到な知的戦略を有していることが大きな特徴として浮かび上がった。目の前にある問題が、医学や産業技術に深く関係するのであれば、宗教的知識人もまた、それらの知識について全く無知ではありえない。そのため、いわゆる自然科学的な知識の習得についても、宗教的な観点から奨励することで、多くの宗教的知識人の知識内容を多様化する取り組みが刺激されていた。

また、こうした宗教的知識人たちの相互協力や知的競争のなかからも、目の前の問題にどう積極的に対応できるか、そしてそのために必要とされる知恵や知識が柔軟に吸収され応用されていることも重要な特徴として指摘しなければならない。この点は、エジプトの場合では明確に認めることができないものであり、両国の社会の決定的な相違を生み出す一つの原因として指摘することが可能となった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
Masayuki AKUTSU, "Faith in Personal and Religion in Public: Muslim Society in Action in This World (dunyā)", *Orient* 48 (2013), pp. 113-124.査読有。

阿久津正幸「「非イスラーム世界における hizmet ： ムスリム社会の構築とイスラームの伝統的価値観」『宗教と社会貢献』3-1（2013年）pp.1-25。査読有。

阿久津正幸「イスラーム世界における hizmet：トルコ、エジプト、インドネシアの事例報告」『イスラム地域研究ジャーナル』6（2014年）、pp.23-30。査読無。

阿久津正幸「三人の女性教師が教育改革」『季刊アラブ』（2014年）、pp.17-18、査読無。

〔学会発表〕（計４件）
Masayuki AKUTSU, Islamic View of Nature and the Evolution of Indonesian Muslim Society: Tawh*i*dic Pluralism through Spiritual Attitude toward Social Reality, "Can Environmental Protection be the Universal Values?: A Lesson toward Corporation for Environmental Protection with/ between Muslims from Indonesian Case Studies". Islam and Multiculturalism, Waseda University", December 21, 2013.

阿久津正幸、イスラームの信仰とムスリム社会：スピリチュアリティが涵養する科学、信仰が構築する社会関係、「宗教と社会」第22回大会（天理大学）、2014年6月21日。

Masayuki AKUTSU, Comparison between Japanese and Indonesian Society: Traditional Ethics, Local Community, and Human Society, Minia Board of Education, Minia, Egypt, August 23, 2014.

Masayuki AKUTSU, Traditional Ethics, Local Community, and Evolving into Human Society: Comparative Study on Japanese and Indonesian Cases, Kajian Jepang: Dalam Perspektif Humaniora, Fakultas Ilmu Budaya, Universitas Gadhah Mada, Yogyakarta, September 20, 2014.

〔図書〕（計４件）
Masayuki AKUTSU, "Special Issue: The Intellectual's Role and Muslim Society from a Historical Perspective", *Orient* 48 (2013), pp. 1-124.

阿久津正幸「ファーラービー『諸学通覧』：知識のネットワーク化とムスリム社会」柳橋博之編『イスラーム：知の遺産』東京大学出版会、2014年、pp.33-59。

Masayuki AKUTSU, "Islamic View of Nature and the Evolution of Indonesian Muslim Society: Tawhidic Pluralism through Spiritual Attitude toward Social Reality", Organization for Islamic Area Studies (Waseda University), Asia-Europe Institute (University of Malaya) eds. *Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, 2014, pp. 267-273.

阿久津正幸『板垣雄三先生インタビュー Vol.2』NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、2014年、93p.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
阿久津正幸（AKUTSU, Masayuki）
　東京大学・人文社会系研究科・研究員
　研究者番号：10626188

(2)研究分担者
（　　）

　研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

　研究者番号：